

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成 27 年 7 月 10 日)

【四一】子路 石門に宿る。晨門曰く、奚く自りすると。子路曰く、孔子自りすと。曰く、是れ其の不可なることを知りて、之を為す者かと。

「晨門」とは門番です。「石門」は魯の国のお城の外にある外門。そこで宿を取ったら、そこにいた門番がお前はどこから来たんだいと聞いた。子路が答えた、孔先生のところからです。門番が、自分の主張ばかりしていても世の中には通用しない。お前の先生が言っていることは世の中に通用しない、駄目だと知りながら無駄な努力をしている人の弟子かというような会話をした。

それを渋澤栄一が批判して、世の中には不可能だと思っても、やらねばならないことがある。駄目だと思って退いてしまうのは老壯の考え。老壯思想は現実には役に立たないと批判をしていますが、批判の仕方が面白いなと思います。

渋澤栄一が、私も同じように世の中に通じないかもしれないと思っても、国家のために最後の最後まで身を捨ててお国のために尽くす。明治維新の志士が辞世の句として、「かくすればかくなるものと知りながら 止むに止まれぬ大和魂」と詠んだ明治の志士がいる。私もそういう気持ちで、明治維新をめぐりぬけて来た。門番というのは、世に隠れた賢人ということですが、世に隠れて批判をしていては、世の中の役には立たないと、この文章で老壯思想は駄目だと断定をしているところが面白く感じました。

孔子のことを、このように隠れた賢人が知っているということは、孔子一行は世の中に知られていたのだろうかと思います。

最近、ローマ法王が環境問題でかなり変わったことを言っています。環境問題が悪化したので人類は滅びかねない。これはキリストの頃を考えると、最後の審判の日が下る時に相当する。したがってキリスト教を信奉するものは環境問題を悪化させないよう努力をして貰いたいと勅語のようなものを出したそうです。指導者達には激震が走ったそうです。これをあわせてみれば、不可能だと思うことをあえてローマ法王が言うのかと世に隠れた賢人が評したということなのです。

宗教界の指導者が、最後の審判がそろそろ到来するということじたい想定外の事です。日本だと天皇が談話で話したのではなく、勅語という形で世の中に公表したと受け止めれば、日本人としては考えざるを得ないという内容です。